

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

12月10日 (No.44・今年もあと……号)

2006
*
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

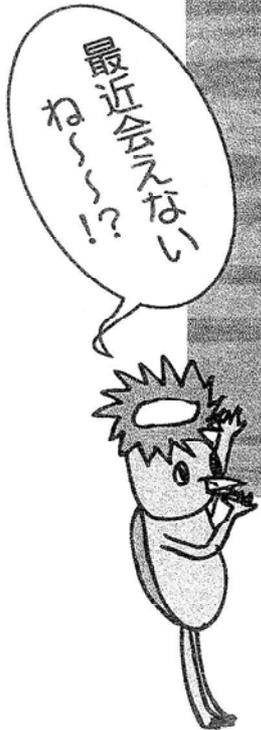


写真：山崎 光久

勝手にレッドデータ of 志木 (30)

キンクロハジロ

目が金色(黄色)、頭から頸が黒色、脇腹と腹が白い、その名も「キンクロハジロ」。毎年1月実施のガンカモ一斉調査で、10年前の平成8年には14羽が観察されていました。今から3年前の平成15年12月に志木中学校前で2羽を観察して以降、私は見ていません。水に潜って貝類やエビなどの甲殻類、水生昆虫や水草などを食べますが、柳瀬川的环境が変わってしまったのでしょうか。(山崎 光久)



9/9
(土)

こどもとおとなの自然塾(4)

秋の鳴く虫の声を聞こうかい

参加者・保護者・スタッフ合せて約30名で夕方の柳瀬川で虫の声を楽しみました。

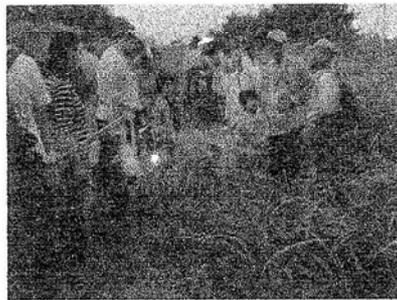
前半は、柳瀬川の川岸でバッタやコオロギを捕まえて図鑑で名前を調べたりじっくり観察しました。また、鳴き声のCDを聴いたり、実際に耳を立てて声を聴いたりしました。

■見つかった虫や声が聴こえた虫は、

- ・エンマコオロギ
- ・ツツレサセコオロギ
- ・セスジツコムシ
- ・クビキリギス
- ・ショウリョウバッタ
- ・ヒシバッタ
- ・マダラスズ
- ・オンブバッタ
- ・コバネイナゴ
- ・アオマツムシ
- ・カネタタキ

(その他)

- ・ナミテントウ
- ・ゲジ
- ・ゴイサギ



- ・アブラコウモリ
 - ・ハグロトンボ
 - ・モンキチョウ
 - ・コメツキムシ
- などでした。

後半は、住宅街を散策しながら、川岸の草むらとは違う鳴き声を探しました。

住宅街を懐中電灯を片手に大勢が歩いているのは少し怪しかったかもしれませんが、いつもの昼間とは違った観察会も風流があり楽しいものでした。

ただ、どこに行ってもアオマツムシの鳴き声が大きく、なかなか他の虫の鳴き声が聴き取りにくかったです。アオマツムシは、明治時代に中国大陸から来たそうで、昆虫の世界でも外来生物の繁殖力の強さを感じました。

ちなみに、昆虫は声を出して鳴くのではなく、羽などをを擦り合わせて音を出しているそうです。つまり鳴くというよりは「演奏」しているんですね。

(伊藤智明)

ごみとエネルギー部会から

レジ袋について思うこと

メンバーがそれぞれ忙しいため、なかなか話し合いも進まないのが悩みですが、環境の問題とりわけ地球温暖化の問題への関心は、市民の間でも高いようでTVや雑誌等でも話題になっています。

私は車に乗らない生活をしていますが、車で出かけることの多い方は駐停車するときのアイドリングストップを心がけることが温暖化防止になります。

また、昨年【ゴミ あなたならどうする?】

をテーマにしたアンケートの中で最も多かった回答は「レジ袋をもらわずマイバッグで買い物をする」というものでした。レジ袋を使わないことが、市民の間で主流になるのではないかと、そんな気すらしています。そうなってくると、お店もレジ袋の提供が不要になると思います。

その他にも、普段の暮らしの中で、水やお湯の蛇口をこまめに閉めるなど、女性向けの雑誌等にもコラムが載っていますので、参考になさってみてください。

(三浦 真奈子)

10/14・15
(土・日)

志木市いろはふれあい祭り

風力発電実験を開催 (ごみとエネルギー部会)

10月14・15日に、志木市ふれあい祭りがいろは遊学館で行われました。ごみとエネルギー部会では、「体を使った発電体験」として、東京電力の風力発電の装置を置いて、うちの風で発電する体験を行いました。

この風力発電機は風を送りプロペラを回すと電気がおこり、メロディーが鳴ります。どんなメロディーが流れるかな？ どうしたらちゃんと風を送れるかな？ 子どもたちを中心に両日とも60名近い方が必死になってうちわで扇いで風を送りましたが、なかなかきれいなメロディーを奏でられる人はいませんでした。うちの扇ぎ方の要領をつかんだ小学4年生の女の子も何回も挑戦したけれどプロペラが回らなかった。お父さん、お母さんも、日頃、何気なく使っている電気を自分でおこす苦勞を身を持って経験し、エネルギーの無駄遣いをしない生活を考

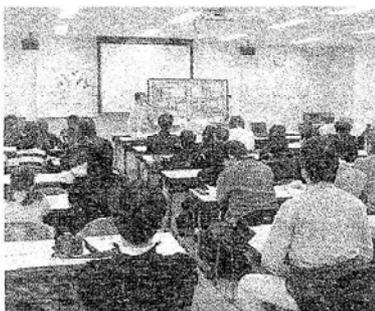
えるきっかけになったのではないのでしょうか。ごみとエネルギー部会では、自ら体験し、自分たちの生活を見直すきっかけとなる場をつくる活動をこれからも続けていきたいと考えています。
(北原正代)



11/26
(日)

新河岸川流域・身近な川の一斉調査2006 主催:新河岸川水系水循環連絡会

一斉調査報告会&お宝マップづくり



午前中は、「川の日ワークショップ」関東大会に出場した流域団体からの報告、流域で活動する小・中

学生の学習発表、ガサガサ水辺の移動水族館さんの「アユの紙芝居」などがありました。

午後からは、11月4日のEポートによる新河岸川の現況調査で撮影された写真による概要や採取した水草など報告がされました。

最後にメインの、市民が勝手につくるお宝マップづくりワークショップが開催され、新河岸川流域の各地に残る自然や文化のお宝を

皆で出し合いました。

出席者の思い入れが強いお宝が沢山だされ、どれも魅力的なものばかりでしたが、選考をした結果、(新河岸川)では、福岡河岸跡、宗岡の惣囲堤や水塚など、(不老川)では、ホトケドジョウとホタルの生息域、七曲井、入曾用水など、(砂川～砂川堀)では、三富の雑木林など、(富士見江川)では、富士見江川沿いの斜面林と湧水など、(柳瀬川)では、多摩湖と狭山湖、狭山丘陵、淵の森、水谷田んぼなど、(空堀川)では、源流の水涵養地など、(野火止用水)では、平林寺、いろは樋のレンガ枡などを今年の新河岸川流域のマップに掲載することになりました。

どんなお宝マップが出来るか、今からとても楽しみです。
(伊藤智明)

11/12

(日)

第4回志木まると博物館「河童のつづら」お宝交流シンポジウム

「川にかかわる自然と文化のまちづくり」

このシンポジウムは、当会と埼玉県生態系保護協会志木支部が運営する「志木まると博物館 河童のつづら」が地域のエコミュージアムとして定着し、循環型社会形成の一助となることを目指し毎年開催しているものです。

今回は特に、志木市内を流れる3本の川（柳瀬川・新河岸川・荒川）にちなみ、「川にかかわる自然や文化を活かしたまちづくり」を具体的に考えることを目的に開催しました。参加者＝22名。

【基調講演】

「川にかかわる自然と文化と流域経営」

講師：恵小百合先生（江戸川大学教授／NPO 法人荒川流域ネットワーク代表理事）

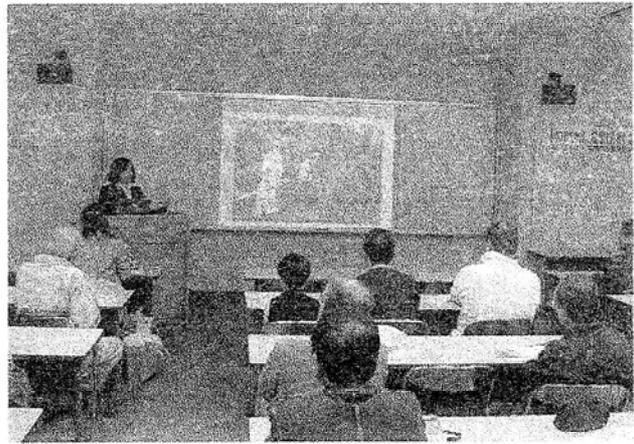
はじめに、川の住所（リバーアドレス）という考え方からご紹介がありました。この考え方は、自分の住んでいる場所を川の視点で紹介するという方法です。ちなみに、いろは遊学館の場合では、日本東京湾隅田川・新河岸川水系支流柳瀬川下流高橋と栄橋の間右岸という住所になるのでしょうか。

また、ミズガキ度チェックやアリの眼（土壌からの視点）・トリの眼（上空からの視点）・イルカの眼（水中からの視点）などの「環境を見る眼」や、源流から海までを視野に流域資源の循環を経済的なベースも含め再構築する「流域経営」の観点での環境（エコロジー）も経済（エコノミー）も支えるという誇りを育てる「エコプライドの醸成」などの幅広い考え方を、木遣い文化運動やWEB-GISを使ったマップづくりなど、具体的な事例を交えながらご講演いただきました。

【話題提供】

(1)「志木の崖線ウォーク」天田眞さん（河童のつづら館長）

志木市は、荒川低地に位置する旧宗岡村と、武蔵野台地に位置する旧志木町との合併により誕生しました。台地の縁の崖線を「朝霞との境界の谷津地に面した崖線」、「新河岸川に面した崖線」、「市場坂上交差点付近」、「柳瀬川に面した



崖線」の順に、写真とともに解説していただきました。

(2)「志木の野火止用水」今野美香さん（志木市生涯学習課 文化財担当）

野火止用水は、川越藩主松平信綱が玉川上水開削の功により幕府から許可され玉川上水から分水されたもので、玉川上水の33分水の中で最古（承応四年〈1655年〉）、最大（分水口の大きさが六尺×二尺）、最長（小平市から志木市まで総延長約20km）の用水路だったそうです。

志木には分水を含め3本で流入し、更に枝分かれし、生活用水や農業用水に使われていましたが、昭和40年（1965年）に暗渠化されました。

(3)「河童のつづらの未来像と志木」毛利将範さん（エコシティ志木副代表理事）

志木でエコミュージアムを展開し、まちづくりに活かすには、お宝を楽しみながら学びあうこと、地域社会の発展へ貢献すること、環境文化（自然・文化環境を維持、存続するための規範）の創造が必要、などの未来像が語られました。

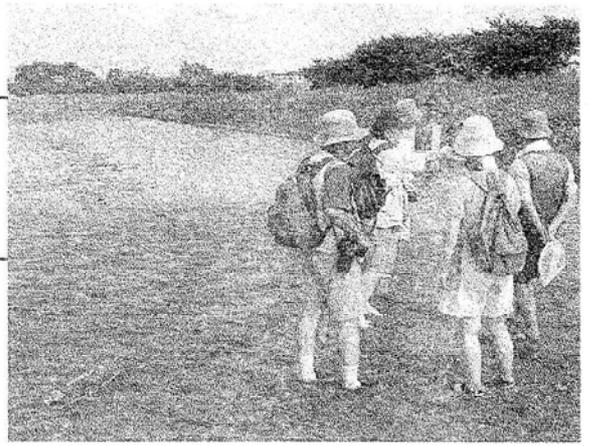
最後に「エコミュージアムの展開と志木のまちづくりについて」と題したパネルディスカッションを行い、今後の展望についての他、参加者の意見を交えながら林業問題・ダム問題・水質問題・海洋問題など多岐に渡る議論が行われました。

また、会場入口には、埼玉県生態系保護協会志木支部長の山崎さん提供による、志木市周辺で観られる野鳥や野草の写真が飾られ、参加者の眼を和ませていました。（伊藤智明）

9/3
(日)

お宝発見ツアー

柳瀬川をジャブジャブ歩く



沢登りや源流探しはあるが、普通の川の中を歩くというのは中々ありません。

富士見橋～栄橋までジャブジャブ歩きながら、川の様子（水辺・水中の植物、魚・水生昆虫、微地形・小石）を探検・観察しながら、エコツアーとなりうるか？ そんな意味も込めてのツアーとなりました。

まず、水生昆虫と小石の観察をしました。川の中では地形と其の変化や水辺・水中の植物を中心に観察しました。また、折をみて魚を捕りました。

閉鎖されたワイズ工場の前にあった冬場にはタシギなどが観られた中州が、地形変化で小さくなって現在ではほとんどなくなってしまった所などを真近で観察しました。

水辺の植物で目立ったのは、オオブタクサやアレチウリ、キクイモなどの外来植物でした。花粉症の発生とも原因になるオオブタクサにつ

いては、毎年、志木中学校と協働で採取作業を行っています。また、アレチウリは外来生物法で「特定外来生物」の指定を受けています。

さて、川歩きの感想は、

- ・高橋から下流部は川が単調
- ・歩くよりもカヌーの方が面白そう
- ・川歩きとお楽しみ（バーベキュー等）をセットにしたらどうか
- ・川の中にはゴミが目立つので、ゴミ拾いイベントはどうか
- …などが出ました。

果たして、都市の川の中を歩くというエコツアーは成り立つのか、今後が楽しみです。

(伊藤智明)

10/1
(日)

お宝発見ツアー

堤防と樋門を訪ねて

土地の高低が非常に小さく、頻りに蛇行を繰り返す2つの川（荒川と新河岸川）に挟まれて度々水害を被った志木市宗岡地区には、その対策のための様々な堤防や樋門などの治水対策の歴史（お宝）が残っています。雨の中でしたが、当代表の天田さんによる案内のもと、総勢6名で歩きました。

堤防は、川の氾濫を防ぐために作られた昭和初期の堤防と現在の堤防が残る所や、氾濫した水が村に入らないようにする惣囲堤（輪中堤）が残る所を観て歩きました。ちなみに、国土交通省でも川の氾濫を前提とした惣囲堤（輪中堤）を活用した治水対策などが見直されているようで、温故知新を感じます。

樋門は、普段は内水を川に流し、川が増水したときは扉を閉め逆流を防ぐもので、志木市宗岡地区では明治後期に石造や煉瓦造に改築され

たものの内4ヶ所が現在も残っていて、そのうち3ヶ所を観て歩きました。樋門は、塚（いり）、塚樋（いりひ）、門樋、樋管などとも呼ばれています。その他、水塚や舟運の歴史なども聞くことができ、とても有意義な一日でした。

(伊藤智明)





西原斜面林のせど湧水

志木の崖線

がいせん

天田 眞

● 台地と低地からなる志木地区

現在の志木市は、昭和30年に志木町と宗岡村が合併し足立町となったことが元になっています。宗岡地区は全域が荒川低地にあるのに対し、志木地区は武蔵野台地の東北の縁の新河岸川と柳瀬川との合流点に位置し、台地と柳瀬川や谷津沿いの低地からなっています。現在は全域が都市化していますが、昔は台地にだけ集落があり低地は水田等であり集落はありませんでした。台地と低地の境は比高6～10m程度の崖線になっています。

● 武蔵野台地とは

武蔵野台地とは、青梅を基点とし東に東京湾まで続く扇状地で、青梅西方の関東山地から昔の多摩川によって押し出された砂礫が海底に積もり後に隆起したもので、上層部は火山灰からなる関東ローム層に覆われています。台地の北東側は川越から東京中心部に続く崖線となり荒川低地に面しています。

柳瀬川は、多摩川が今の流れに落ち着く前の古多摩川の名残で、ニュータウンから栄橋まで続く川沿いの低地は、この古多摩川が台地を侵食してできたものです。

縄文時代前期の温暖な時代には、川越付近までの荒川低地は海となっていて、志木は柳瀬川の河口にあたりました。

● 崖線沿いから始まる歴史

台地の縁は大変住みやすい場所です。洪水の心配がない台地上に住み、崖を降りれば湧き水を得られ、台地で畑、低地で水田をつくり、魚介類も採ることができます。

志木の台地では崖線に沿った地域で縄文時代以降の住居跡や貝塚等の遺跡が多数発掘されています。

中世には、柳瀬川を望む崖線を背にした志木三小のあたりを中心に、柏の城と呼ばれている居館があり、その周辺に現在の志木につながる館村が生まれました。

● 崖線に残る斜面林

かつては緑に覆われていた崖線も都市化が進むと共に開発され住宅地に姿を変えています。僅かに残された斜面林は、緑の少ない志木では大変貴重な樹林です。

代表的な斜面林はこもればのこみち（敷島神社裏）と西原区画整理地区内のものですが、長らく手入れされていない場所は荒れてきており、区画整理工事では一部が伐採されてしまいました。

● 崖線下の湧水

かつては崖線の下からは水が染み出し、場所によっては豊かな湧水となっていました。現在は開発に伴い埋められたり、地下水位が下がったりして殆ど無くなってしまい、昔からずっと湧き続けているのは「こもればのこみち」だけとなっています。

西原斜面林の下にも豊かな湧水があり崖線上の家々の生活用水として使われていました。上水道が敷設されてからは使われなくなり一旦は埋められてしまいましたが、8年前に市民グループにより掘り出され復活（冬から春にかけてはたまり水状態）しています。

11/4
(土)

新河岸川の現況調査 ～川を下りながら～

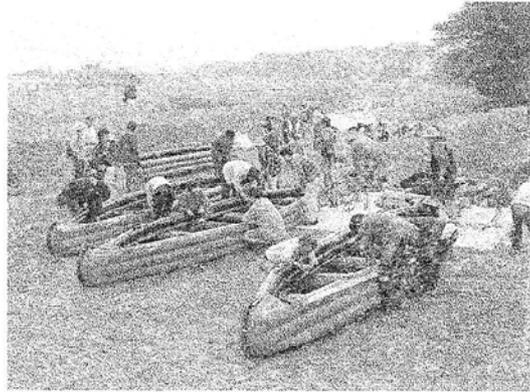
主催：新河岸川水系水環境連絡会

この調査は、地球環境基金の助成を受け、NPO法人地域交流センターからEボート(10人乗り)を5艇借りて、新河岸川を川越から朝霞まで下り、行いました。

普段なかなか行けない新河岸川本川を知るととても良い機会となりました。ボートが次々と下ってくるので、釣り人は困惑していましたが。

そうした中、私の艇のインストラクターが、「ボートやカヌーが通る機会が増えれば、釣り人もお互い様という意識にもなるだろうし、川もキレイにして行こうと想うようになると思いますよ」と言っていたのがとても印象的でした。

調査項目は、野鳥、野草、水温、河床の状況、河岸の状況や水質、水草などです。調査結果については、後日開催予定の「新



河岸川流域・身近な川の一斉調査」報告会で報告する予定です。

今回は、流域13団体のほか、埼玉県南部漁業協同組合や行政職員の方などの参加もあり、総勢40名程。とても良い交流が出来ました。最後は、朝霞台駅前でお決まりの「さくら水産」となり、これからの新河岸川流域での川づくりについて夢を語り合いました。

(伊藤智明)

10/7
(土)

身近な川を調べる ～水環境健全性指標調査研修会～

この研修会は、(社)日本水環境学会が環境省の調査事業として作成した水環境健全性指標について、その手法の妥当性を確認しつつ共通認識を得るために、実際の川で指標を用いた調査を行う研修会でした。交通の便も良く、二つの川の比較ができる場所として、志木市にある新河岸川と柳瀬川の合流点周辺をフィールドに開催され、約20名の参加がありました。

午前中は、新河岸川と柳瀬川の合流点周辺で、地元の川の様子に詳しい当会代表の天田さんによるフィールド案内と以下の指標を使った川の評価が行われました。午後は、この指標に対する活用方法につい



て、各参加者が行った評価の報告集計を元に、調査の使いやすさ、結果データなどについて活発な議論が交わされました。

- (1)「自然なすがた」指標：どれくらい自然な状態を維持しているのか
- (2)「ゆたかな生物」指標：生物にとってすみやすいのか、生物がみられるか
- (3)「水の利用可能性」指標：この水はきれいなのか、どんな利用ができるのか
- (4)「快適な水辺」指標：どんな水辺だったら心地良いと感じるのか
- (5)「地域とのつながり」指標：わたしたちの暮らしと水辺はどれくらい関係があるのか

<詳細>(社)日本水環境学会 関西支部
「水環境健全性指標に関する調査のお願い」
http://www.jswe-kansai.com/water_index/water_index.html

志木おやこ劇場

エコシティ志木は自然や福祉、志木おやこ劇場は子どもや文化をキーワードに、心豊かなまちづくりをすすめている仲間として、互いに団体賛助会員となっています。これからもお互いの活動を理解・協力・参加・支援し合っていきたいです！

第112回例会

まちをあそぶ

3/21(祝・水) 1:30~3:30

パルシティ→本町→志木小校庭

小学生対象(参加券1500円)

エコシティ志木、クラブしっきーず、本町のいろは商店会などの協力を得て、子どもも大人も町をステージにした忍者あそびをします。手伝ってくださる(一緒に遊ぶ)大人も募集しています！



第1回作戦会議 12/16(土)10:00~パルシティ103 参加どうぞ。

第14回

子どもまつり

5/6(日) 10:00~2:00

ニュータウン中央公園
雨天5/13

どなたでも参加ください

毎年大好評の子どもまつり。子どもたちのお店、ダンボールすべり、スライム、どろだんごなど人気コーナーがたくさんあります。エコシティ志木の移動水族館も、毎年子どもたちが楽しみにしています。野外ステージで子どもたちがジャグリングやディアボロを披露する計画もたてています。



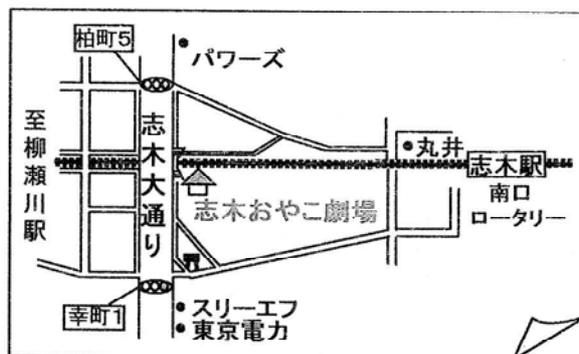
志木おやこ劇場で、異年齢の子どもと大人が出会い、定期的に舞台鑑賞や遊びを楽しみませんか。

入会金500円(1世帯)

月会費1200円(4才以上/3才以下無料)

*賛助会員も募集中です(1口5000円)

毎月の通信をお届けして年に1回好きな鑑賞ができます



志木おやこ劇場事務局 〒353-0005 志木市幸町1-1-45 齊喜荘108 TEL&FAX 048-476-5363

《 気軽にお問い合わせ、お立ち寄りください 》

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info-2.html

《鳥類》

モズの高鳴き →9/25 (月) 朝霞市宮戸3で「キチッ、キチッ、キチッ
…と元気に鳴いていました【毛利将範】

コガモ (6) →10/15 (日) ワイス裏の柳瀬川、6羽いました【山崎
光久】

ヒドリガモ (4) →10/22 (日) ワイス裏の柳瀬川、4羽いました【山
崎光久】

ツミ (1) →10/22 (日) 幸町の東京電力の鉄塔に。カラスから嫌が
らせを受けていました【毛利将範】

アオジ (1) →11/17 (日) ワイスと柳瀬川の間遊歩道：柳瀬川
ウォッチングで

《ほ乳類》

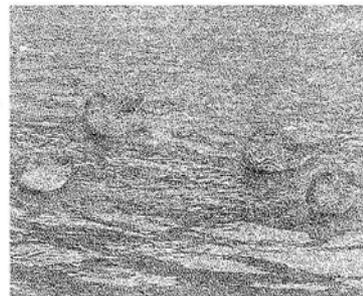
ホンドタヌキ →9/3(日) ワイス裏の柳瀬川、コダヌキが5匹いるそ
うです【山崎光久】

《両生類》

ウシガエルのオタマジャクシ (約8cm) →9/17 (日) 志木中前の柳瀬
川：柳瀬川水族館で



↑仔ダヌキ(9/3山崎)



↑コガモ(10/15山崎)

環境 ひとくちメモ(3) 伊藤 智明

生活環境の保全に関する環境基準 ＜河川＞

水質汚濁に係る環境基準の中で、河川に関する生活環境の保全に関する環境基準があります。志木市を流れる柳瀬川・新河岸川・荒川の場合、表のような類型となっています。同じ川でも流れる場所によって環境基準が違えることがわかります。

ちなみに、B類型(水産2級)以上になるとアユなどのお魚が気軽に食べられるようになるかもしれませんね。

類型	志木市内を流れる河川	利用目的の適応性(※)
AA	荒川上流(1)=中津川合流点より上流	水道1級 自然環境保全 及びA以下
A	荒川上流(2)=中津川合流点から熊ヶ谷まで	水道2級 水産1級 水浴及びB以下
B	荒川中流 =熊ヶ谷から秋ヶ瀬取水堰まで	水道3級 水産2級 及びC以下
C	荒川下流(1)=秋ヶ瀬取水堰から笹目橋まで 荒川下流(2)=笹目橋より下流 ※都内含む 柳瀬川下流 =埼玉県内	水産3級 工業用水1級 及びD以下
D	新河岸川上流=埼玉県内 新河岸川下流=東京都内	工業用水2級 農業用水 及びE
E	柳瀬川上流 =東京都内	工業用水3級 環境保全

☆会員状況

12月1日までに2006年度分更新済みの会員は、個人62、団体2、賛助1です。

■カンパありがとうございました

榎田 宏子 さん

■新入会員

片山 巖 さん

恵 小百合 さん

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2006年度分、更新まだの方は継続をよろしくお願いします。

★宛名シールに会費の有効期間が書いてあります。チェックしてください。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な協力団体

いろは遊学館利用者の会

黒目川に親しむ会

グループぱんぽこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木NPOネットワーク会議

志木おやこ劇場

志木市コミュニティ協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

※8ページのネットワーク紹介「志木おやこ劇場」の記事に間違いがありましたので以下のように訂正してください。

第14回

子どもまつり

5月13日(日) 10:00~2:00

ニュータウン中央公園

雨天の場合5/20(日)

どなたでも参加ください

忘年会へのお誘い

◆以下のように運営委員会と忘年会を開催します。お気軽にご参加ください。忘年会だけの参加も歓迎です。

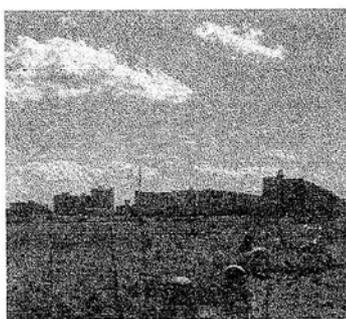
【日時】 12月17日(日) 午後2時~6時

【場所】 いろは遊学館 「工作室」

【内容】 どなたでも参加できます。
忘年会は午後4時ころからです。

【問合せ】 048-471-1338 (天田)

参加してきました



去る10月8日、水谷田んぼでふじみ環境クラブ主催の「稲刈り」と「稲干し」に参加してきました。

この日は、天気はよかったです。スゴイ風が強かったため、稲干しの台を作って稲を掛けては突風に倒されるの繰り返しでもあり、指導していただいている農家さんも苦戦していました。最後になんとかスズメ除けの網をかけて終わることができました。

作ったモチ米は乾燥→脱穀→精米のあと、公民館まつり等のイベントでお餅にする予定です。(伊藤智明)

「カツパ淵の魚釣り」



収穫の終わった矢来棒の間のク口を俺は走った。オットット
アブネエ！ 両手を広げバランスを取りながらタンジサン
の家へ向かった。

この時期の田のク口は役目が終わり弱くなっていた。

タンジサンは屋号で、木内君の家である。柳瀬川に架かる富
士見橋を少し下流に下るとその家があったが、この付近の川の

流れは急に速くなり、ゴー

ゴーと音を発しながら、

大小の渦を巻き、大きな

エノキの根元を洗い大き

く曲がっていた。木は流

れの方に少し倒れかかっ

ていたが、対岸からは近

づく事の出来ない危険な場所でもあった。

流れる水はどこまでも青く、川底はどこまでも深く

。俺は、大木にしがみつき下を覗いた。それはオツカ

ナク、目を背けたくなる光景で、今にも俺の足を呑み

込もうとしているようだった。

木内君は、ちっとも怖くなんか無いヨ、と言って木の

枝を上に登り始めた。俺には真似できない。足がすくみ、

手が伸びない。が、口先だけは動いた。

オメエー危ネーど！俺にはついていけない！

そう言いながらも下を覗く。本当に怖い。落ちたら「一

巻の終わり」だ！

何でオメエんち、こんな田んぼの中なんだ。

家の人が出てきて、昔は水車小屋なんだよ。「小橋の

水車」と言えば誰でも知っているよ、と返事が返ってきた。

そうなのか、そんで家の前にも小さな川が流れているのか！

オメー、昔この近くにカツパが住んでいたという話があるの

を知らねーか、と言われた。

そうか、ここが「カツパ淵」か！初めて分かった。

オメー、今度魚釣りに来いよ。デッケー魚いるのを見たこと

あるぞ、と誘われた。

ウン、ソンジャー捕んべー、と言って別れた。

そして、明日で一週間。俺はウキウキした。あのカツパ淵には
どんなにデッケー魚がいるんだんべー。いや、もしかするとカツ
パが釣れるかもしれないナ、と、楽しいのやら不安やら、釣り竿
の準備をした。太い糸に大きな釣り針を付け、道具の準備が出来
た。あと、餌の準備をしなければ、と「ツクテッパ」に行き、マ
ンガでツクテをヒックリ返し赤ミミズを探した。このミミズじゃ
デッカ過ぎるべーと、ポイツと捨てる。その時だ。チューとミミ
ズのシヨンベンが顔にかかった。キッターネーな、と言いながら服
の袖で顔を拭く。チクシヨウ、なかなか手ごろのミミズが見つ
からなかった。しょうがネエので、山の中のツクテッパに場所を
変えて探した。ミミズはいるが、丁度いい赤身のミミズは少な
い。

時間はかかったが街の中にどうやらたまり、ミミズは絡み合い

一つの塊になっていった。俺、小便がしたくなったので立ち小便し

ていると、先程放り出した大きなミミズがまだそこに居た。俺、

ミミズに向かって小便を上手にかけたなら、ミミズは水を得たの

か、さつきより元気が出たように動いた。待てよ、小便をかける

とチンボが曲がると言ったな、と、迷信なんて嘘だんべ、と、面白

いから続けた。その時だ、女の子に見られたような気がした。

俺は顔の造作を総動員して、マズイ顔の熱くなるのを覚え、一

目散に家に帰った。

おばあちゃん、釣りに行くミミズを捕ってきたのでお茶殻をく

れー、と言いながら、おばあちゃんヨ、何でミミズにシヨンベン

かけちゃーいけねえんだ、と聞いた。

オメエー何でそんな事聞くんだ、かけたのか！

ソーダよ。

馬鹿だナ、ミミズは作物を作る土を肥やす生き物だ。木の葉や

刈り草などを堆肥にする手伝いをする大切な生き物なんだぞ。だ

からミミズは農家にとって神聖な生き物だヨ。ヘビはネズミを捕

まえてくれるが鶏の玉子を盗むだんべー。だけどな、ミミズは

違って土の中に住み、目も無い、可哀想だからいじめちゃあいか

ねえんだヨ、だからすぐにチンボ洗わねえと曲がっちゃあぞ

、と脅かされて、井戸端に走った。

(終)

※ク口 畦のこと（「田のくろ豆」とは、畦に植え収穫された豆のこと） ※ツクテッパ 木の葉、刈り草を堆肥にする場所

※マンガ 萬籟 ※ミミズをお茶殻の中に入れておくと赤くなる作用がある。理由不明

川の日ワークショップ関東大会で準グランプリ！

11/11(土)「第2回川の日ワークショップ関東大会」で「河童のつづら」の活動発表で、準グランプリをいただきました。

このワークショップは、『みんなで“いい川”を持ち寄り、それぞれの川の「タカラモノ」に光を当て、「“いい川”いい川づくり」とは何か』を探り、選考のプロセスの中で、知恵や元気を分かち合いながら、共通のイメージを育てていく』ものだったので、当会は今年初めての参加でした。

ちなみに、3分間というとても短いプレゼンテーションと選考の結果、入賞したおもな団体は以下のとおりです。

■グランプリ

「子供たちに自然体験をさせたくて」NPO法人ふるさと創生クラブ

■準グランプリ

「志木まるごと博物館 河童のつづら」NPO法人エコシティ志木 & (財)埼玉県生態系保護協会 志木支部

■いい川仲間で賞

「ガサガサ探検隊と水辺の移動水族館」ガサガサ水辺の移動水族館

ほかでした。

ワークショップ終了後は、懇親交流会で中華料理と紹興酒を囲んで、楽しい川談義に花を咲かせました。(伊藤智明)



編集後記

◇通信の発行が遅れて申し訳ありません。担当者のパソコンが壊れ、作業が大幅に遅れてしまいました。

◇河童のつづらのホームページづくり、エコシティ志木の記事を書いてくれるボランティアスタッフを募集中です。パソコンが得意な人、人の話を聞くのが好きな人、調べることが好きな人、お待ちしています。(ふくろう)

エコシティ志木通信
第44号・2006年12月10日
発行

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com



古紙配合率100%再生紙を使用しています